

東北大学災害科学国際研究所主催「東日本大震災メモリアルシンポジウム 2022 —海溝型地震研究の発展と将来への備え—」を行いました（2022/3/5）

テーマ：海溝型巨大地震・津波、日本・千島海溝、臨時情報、東日本大震災、予防、応急対応、復旧復興
会場：仙台国際センター展示棟、WEB 同時配信
URL：https://irides.tohoku.ac.jp/event/annual_symposium/memorial2022.html

2022年3月5日（土）午後1時から4時まで、仙台国際センター展示棟で開催された「仙台防災未来フォーラム 2022」の会場内において、「東日本大震災メモリアルシンポジウム 2022 —海溝型地震研究の発展と将来への備え—」を当研究所主催で開催しました。このシンポジウムは、日本海溝・千島海溝を含む海溝型巨大地震のリスク評価の現状について科学的根拠をもとに理解した上で、それに対する様々な視点での備えを考えていくことを目的としています。

当日は、新型コロナウイルスの感染予防に十分配慮しつつ、会場の入場者数を限定し、オンラインでも同時配信・質問受付をする形式で実施しました。会場に70名、オンラインで56名の参加をいただきました。さらにシンポジウム会場に隣接した展示ブースにて、来場された方々に当研究所の活動についてご紹介しました。

本シンポジウムの内容と登壇者、および展示ブースは以下の通りです。

- ・総合司会 藤井 進 准教授（災害医療情報学分野）

■開会の挨拶 今村 文彦 所長（津波工学研究分野）

■第1部 海溝型地震研究の最前線

- ・基調講演1 高橋 浩晃 教授（北海道大学大学院理学研究院）
- ・基調講演2 松澤 暢 教授（東北大学大学院理学研究科）
- ・トークセッション座長 木戸 元之 教授（海域地震学研究分野）

■第2部 巨大地震・巨大津波に備える —東日本大震災の教訓をともに—

- ・趣旨説明/座長 平野 勝也 准教授（空間デザイン戦略研究分野）
- ・話題提供1 佐藤 健 教授（防災教育実践学分野）
- ・話題提供2 有働 恵子 准教授（災害ジオインフォマティクス研究分野）
- ・話題提供3 佐々木 宏之 准教授（災害医療国際協力学分野）
- ・話題提供4 姥浦 道生 教授（空間デザイン戦略研究分野）
- ・パネルディスカッション

■閉会の挨拶 丸谷 浩明 副所長（防災社会推進分野）

■展示ブース

- ・東北大学災害科学国際研究所「東北大学災害科学国際研究所の社会へのアウトリーチ」

第1部では、外部から海溝型地震の専門家2名を招き「海溝型巨大地震の最前線」について基調講演を行いました。はじめに、最近の研究により超巨大地震が迫っていることが判明した千島海溝のリスクの科学的根拠と、それに対する一連の国・行政の対応を説明いただきました。次に、海溝型地震を科学的に理解する上での基礎と、最新の観測事実に基づく東北地方太平洋沖地震の発生様式の理解および周辺海域への地震リスクの波及について説明いただいた上で、南海トラフ地震と同様な臨時情報の日本海溝・千島海溝への適用の難しさを、トークセッションを通して理解しました。

第2部では、第1部で明らかにされたリスク評価の現状を鑑み、予防（ソフト）、予防（ハード）、応急対応、復旧復興の4つの視点で、当研究所の研究者に「東日本大震災の教訓に基づく、巨大地震・巨大津波への備え」について話題提供いただき、パネルディスカッションを通して理解を深めました。

本シンポジウムの準備・運営は、東日本大震災メモリアルシンポジウム 2022 ワーキンググループ（木戸元之・藤井進・平野勝也・有働恵子）と広報室が担当しました。

文責：木戸元之（海域地震学研究分野）



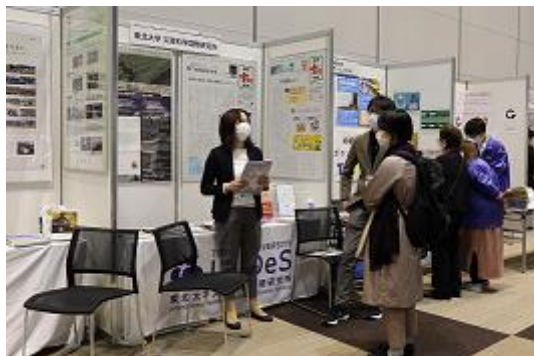
基調講演者とのトークセッション



パネルディスカッション（第2部）



会場の様子



展示ブースの様子